

早稲田商学第 461 号  
2021 年 9 月

## 消 息

### 澤田 賢先生を偲んで

多くの教職員や学生が敬愛してやまない、澤田 賢先生が本年 3 月 19 日に逝去されました。享年 68 歳でした。ここに、学部を代表してお別れの辞を捧げ、澤田先生のご冥福をお祈りすることにいたします。

澤田先生は、1975 年 3 月早稲田大学理工学部数学科をご卒業後、引き続き大学院理工学研究科博士前期課程に進まれ、1981 年 12 月理学博士を取得されると同時に同研究科博士後期課程を修了されました。1981 年 4 月豊橋技術科学大学工学部に助手として着任され、1989 年 4 月早稲田大学商学部に専任講師として嘱任されました。その後、1992 年 4 月助教授、2004 年 4 月教授に昇任されました。早稲田大学における在職期間は 31 年 11 か月の長きにおよび、これまでの研究および教育への功績により本年 5 月名誉教授号が追贈されました。また、この間、The Japanese Committee for International Mathematical Olympiad 委員や数学オリンピック財団評議員を務められるなど大学外においても活躍されました。なお、澤田先生の研究教育面における業績や功績の詳細については、渡邊展也先生による消息をご参照ください。

澤田先生は多くの教職員、学生から慕われる方でした。とくに学生に対する数学教育には情熱を傾けていました。コロナ禍にあって対面授業の早期復活を切望され、学生に直接教えたいというお気持ちを幾度となくお聞きしました。教授会訪問をされた総長に対しても同様の要望をされました。授業教材である『社会科学の数学』（朝倉書店）、『大学で学ぶ線形代数』、『大学で学ぶ微分積分』（以上、サイエンス社）の刊行にあたっては、数学を担当する先生方の取りまとめ役を務め、商学部における数学教育の基盤構築に大きく貢献されました。先生が大学に出校されているときは、11 号館 3 階の教員室入口付近に座っておられ、常に多くの先生方と談笑されていました。先生の周りには自然と人が集まり、先生に惹かれる方が多かったことを物語っています。かくいう私もその一人です。私にとっては兄貴的存在であり、二人のときは親しみを込めて「賢さん」と呼

んでいました。他の先生方を交えてお昼をご一緒したこともしばしばで、授業のこと、日々のことなどの話題で盛り上がり、いまでは楽しい思い出となっています。ゴルフや釣りなど多方面の趣味もお持ちでした。

いつも元気で若々しい澤田先生でしたが、緊急入院されたのは昨年11月のことです。その少し前、たまたま帰路でお目にかかり、途中までご一緒しました。先生の顔色の悪さが気になったものの、そのときは少々お疲れがたまっているのかなと思う程度でした。入院はほぼ1か月になり、病状を伺って年度内は静養されてはどうかと勧めたのですが、授業を担当したいという先生の強いお気持ちの前に、私もそれ以上の言葉がありませんでした。2月には病身を押し入試や会議に臨まれました。先生の責任感の強さもありますが、いまでも頭の下がる思いです。先生が最後に出席されたオンライン会議では、数学入試の定員はきちんと確保してほしいという要望をされました。また、入試と連動する新たな数学教育の展開についてもご意見を述べられました。今年度の入学者は先生が望まれたとおりになり、私にとっても約束を果たしえた気持ちであります。惜しむらくは数学入試で入学した学生をご担当いただけなかったことです。

先生の葬儀が執り行われた3月25日、26日の両日は、在りし日の先生のお人柄を映し出したかのような、温かな日差しと満開の桜が印象的でした。これからも、先生との触れ合いや数多の思い出は多くの教職員や学生の心の中に残ることでしょう。澤田先生、長年にわたり早稲田大学とりわけ商学部の発展にご尽力いただき、ありがとうございます。改めてご冥福をお祈りいたします。

早稲田商学同攻会会長  
早稲田大学商学部長

横山 将義